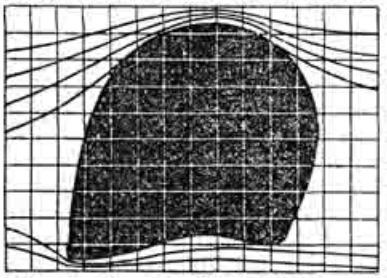
ARAI・NEWS

(株)新井広武　〒330埼玉県大宮市東町2-12☎0486(41)3825

TROPHY STORY

"トロフィー"ストーリーといっても、ライダーが汗と努力によって優勝を勝ちとるまでの、サクセスストーリーというわけではありません。今回は、Araiの新製品"トロフィー"が作られ、世に出されるまで、そう、ヘルメットについての物語をしようと思います。

"トロフィー"製品化の構想が生まれたのは、なんと3年も前のこと。真に空力特性に優れたフォルムをもったヘルメットを作りたい。ここからの出発でした。まず最初に、すでに得ていた頭の形状に関するノーハウをベースにしての空力実験にとりかかりました。空力特性がいくら優れていても、頭にフィットしなくては意味がないからです。その結果、"これなら絶対!"というカッコいいプロトタイプが完成しました。ところが実際に走ってみると、リフトは強く、風切り音も大きく、決して空力特性



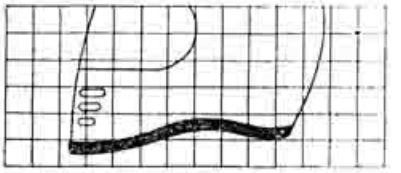
が良いなどといえる代物ではありません。即座に作りなおしです。見た目のフォルムがどんなに良くても、機能面が劣っていたのではAraiの製品として世に出すことはできません。Araiは、うわべだけのスタイルや話題を優先するメーカーではないのです。

改良にとりかかってみると、一喜一憂のくり返し。決して容易な道ではなく、結局4回もプロトタイプを作りかえました。これらのすべてが、このまま世に出してしまっても必ず話題になるだろうといったカッコいいものばかり。現に、そのいくつかにそっくりのフォルムのヘルメットが、世に出回っているのですから。しかし、テストの結果に納得できなければ、それはこわされる運命にあります。Araiで作られるプロトタイプはかわいそうですね。

3年間にわたる研究、4回ものプロトタイプの作りかえは、ただ単に"トロフィー"という結果を生みだしたにとどまらず、有形無形の数多くの成果を生みました。空力に関する豊富なノーハウを得る、貴重な体験でした。また、机上の理論や、風洞実験だけでは完成品は生まれないことも、あらためて学びました。作っては走り、また作っては走る。こんなくり返しが大切なんです。この開発過程で得たノーハウをもとに、

空力をつきつめたひとつの「答」としてディフレクター付モデルを世に出し、高い評価を得ました。しかし、ひとつの「答」で満足するようなAraiではありません。空力に関する、もうひとつの「答」をフォルムに求め、開発を続けたのです。

こうして完成した"トロフィー"にも、ひとつ欠点がありました。裾がスッとすぼまった形状ゆえに、着脱がしずらいということでした。思い悩んだあげく、ふっと気づいたことは、着脱しずらくしている部分を切り取ればいいということでした。これは、コロンブスの卵のような発見。結果として、安全性は一切そこなわれず、しかも、シャープに切れ上ったスタイリッシュなハイバーカットの誕生。機能を追求すれば、スタイルは後からついてくるということを、つくづく感じました。



"トロフィー"には、もうひとつ工夫が加えられています。それは、スリット部のシャッター。スリットの開閉が指一本で可能になり、走りへの集中をさまたげません。しかも、内側への出っぱりはわずか2.5ミリ。この薄さゆえ、さらに上から発泡スチロールのパッドをかぶせることもでき、安全な機構となっているのです。

"トロフィー"をベースにしたヘルメットは、すでに多くのF-1、F-11のレーサーにかぶってもらい、きびしいレース条件のなかで、充分満足のいく結果を得ています。だからこそ、今回の発売にふみ切ったのです。しっかりとした開発コンセプトのもとにじっくり時間をかけて研究とテストをくり返し、実戦のうらづけのもとに生まれた"トロフィー"。決して目だとう精神で作られているのではありません。世に出し、みなさんにかぶってもらい、喜こんでいただけると確信できるヘルメットであるからこそ、おとどけするのです。